

心肺蘇生法(乳児:12ヶ月まで)

* 成人の場合とほぼ同じ手順ですが、成人との違いを赤字で記載します。

①反応の確認

傷病者の耳もとで大声で呼びかけながら、軽く肩をたたき、反応(目を開けたり、目的のある仕草)があるかどうかをみる。**足の裏をたたいて刺激することも有効です。**

反応ありの場合→傷病者の訴えを聞き、必要な手当を行う。
反応なしの場合→②の助けを呼ぶへ



②助けを呼ぶ

反応がなければ、大きな声で助けを求める。
協力者が来たら、**119番通報**を要請する。
協力者がいない場合は、**まず自分で2分間の心肺蘇生法を先に行ってから**、119番通報して、次の手順を行う。



③気道の確保(頭部後屈あご先挙上法)

肺に空気を通りやすくします。
片手を傷病者の額、もう片方の手の人差指・中指をあご先に当てて、あご先が上を向くように頭を後屈させる。



④呼吸の確認

傷病者が正常な呼吸(普段どおりの息)をしているか確認します。

- 1 胸や腹部の上がり下がりを見て
- 2 息の音を聞いて
- 3 頬で息を感じます。

これを**10秒以内**で確認します。

1~3が確認できない。よくわからない場合は、「正常な呼吸がない」と判断して、次の手順を行います。



⑤人工呼吸

正常な呼吸がなければ、**口対口・鼻人工呼吸**を行います。

気道を確保したまま、**傷病者の口と鼻を同時に空気が漏れないように覆います**。もし、口と鼻を覆えなければ、**通常の口対口人工呼吸**を行います。

軽く胸が上がる程度、約1秒かけて息を吹き込みます。これをうまく入らなくても**2回だけ**行います。

感染防止のため、感染防護具を使用しましょう。ためらわれる場合は、人工呼吸を省略し、すぐに胸骨圧迫に進みます。



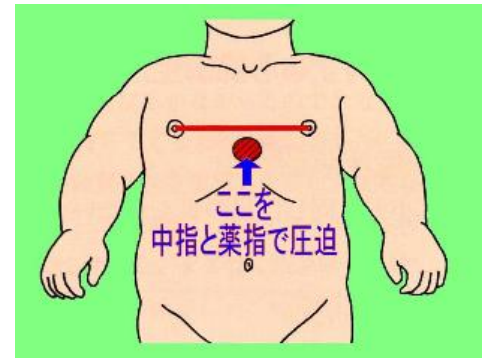
⑥胸骨圧迫(心臓マッサージ)

人工呼吸を2回行った、あるいは省略したときは、すぐに胸骨圧迫を開始します。

左右の乳頭を結ぶ線より少し足側を中指と薬指の2本の指で押します。

指が曲がらないように垂直に**強く(胸の厚みの1/3押し)**、**速く(1分間に100回)**、**絶え間なく(30回連続)**圧迫します。

圧迫したら、指が浮かないように気をつけて、胸がしっかり戻るまで解除します。



⑦心肺蘇生法の実施

胸骨圧迫を30回行った後、人工呼吸を2回吹き込みます。

この30:2のサイクルを救急隊に引き継ぐまで絶え間なく続けます。人工呼吸を省略している場合は、胸骨圧迫を絶え間なく続けます。

救助者が他にいる場合は、2分間(5サイクル)を目安に交代しましょう。



乳児に対して、AEDを使用してはいけません。
心肺蘇生法を絶え間なく継続しましょう。

「心肺蘇生法を中止するのは」

- ① 救急隊が到着して、心肺蘇生法を引き継ぐまでですが、引き継ぐときに救急隊に状況や電気ショックの回数などを伝えてください。
- ② 傷病者が動き出す、うめき声を上げる、正常な呼吸を始めたときですが、救急隊が到着するまで傷病者の観察を続けてください。